

臺灣人が日本内地の社會に及ぼす影響は果して如何なるものであらう乎。而してこれは臺灣ばかりではない、朝鮮に就てもまた同様に考慮を要することである。私は領土の擴張、植民の發展に伴ひて生ずる新なる日本人が如何なるものになるか、又彼等が舊日本⁽¹⁾の社會に及ぼすべき影響如何は、大に考究を要する重要問題であると従來から思惟して居つたことであるが、臺灣に參つては愈々痛切に之を感じたことである。

(一) 水科七三郎氏述「臺灣に於ける兒童の發育」(大正二年三月以降發行の「臺灣統計協會雜誌」第八十六號以下、第九十一號まで、六回に亘りて連載)。

(二) 茲に舊日本といふのは、新領土に對して舊來の日本を指す。

朝鮮半島西側の地貌

理學博士 小川 琢 治

朝鮮半島を鐵道によりて旅行するもの、慶尙道

より全羅忠清兩道に入りて感ずる所は地貌の秋風嶺以東と以西に於ける著しき反襯なり。秋風嶺以東に在りては山間の豁谷急斜面を成し谷底深く谷道V字狀の断面を成すに反し、其以西に入れば豁谷兩側の斜面は濶く鈍くして谷底は凹字狀に近き断面を成すを其最も顯著なる差異とす。慶尙道の西界金泉より忠清道南端の沃川に至る間の地帯は此の地貌の限界に當る漸移地域にして、鐵道の海拔高度と兩側の山嶽との高度の差著しからず。此の慶尙道即ち洛東江流域の地貌は日本内地と同じく、慶州街道の如き著明なる直線狀の罅谷 (Gorge Valley) なども認められ、其の地貌成因の要素として地盤其ものゝ變動が重要な役割を演ずること小藤博士の夙に指示せられし所なるが、之に附隨して表面を削磨する浸蝕作用が第二の要素として盛んに活動し又た今尙ほ活動しつゝあるを信ず。西側の地貌に至りては内地の比較的初期の被覆層

ある地貌に於て見る所の鈍き波狀地（關東平野以北）とも大に趣を異にし、非常に永き時代を通じて大氣中に削剝されたる老朽地貌を呈するものなり。其谿谷兩側の山嶽が此の表面作用によりて削平さるゝと共に谿底は崩壊せる土砂に埋没して淺く濶き谿谷平地となれるなり。而して此の作用の

進行に於て大に注意すべきは風化表土層の非常に厚きことにして、朝鮮半島を通じて其西部に最も廣く分布する花崗岩質の片麻岩が地盤を成す處は黃白色乃至帶赤褐色の長石英の粒を含む「現地成生の冲積層」(Alluvium) が山嶽邱陵乃至臺地を成し、雨水に洗滌さるゝ處は崩れて無數の細谷となり、山嶽の一部は草木の被覆を失ひて禿山となるとあり。大田より稷山成歡に至る間の低平なる土地は此の如くして現在の地貌となれるものなり。則ち此の地域に於て最も著しきは雨水の直接に山嶽を削平する以外に、谷底の流水即ち河水の浸蝕

作用の働くこと太だ微々として、谷底を削り深かめて地貌の凹凸を強むることなき事實なり。更に之を換言すれば此の地域の地貌の現狀は地貌輪廻の最後の階級たる老朽期に屬し、今尙ほ基準作用 (Base-leveling) の進行しつゝあるなり。

何故に此の地域に流水の浸蝕作用が微々たるやは一考すべき問題なるが、吾人の半島地質の智識より推測する所によれば、此の地域即ち黃海に瀕する地方は中生代以後の海成層を缺くものにして第三紀以後に地盤の昇降なかりしこと日本群島の場合と著しき差異の點なり。蓋し現在の西側地方は此の安定なる地盤が主として表面より働く削平作用のみに服従し其の指定されたる徑路を辿りつゝありて群島の地盤の如く一度淮平原となりたる地區が再び隆起して第二の輪廻に入りたる如き變化多き徑路を進むものと大に趣を異にせるものなり。即ち流水浸蝕作用の微々たるは造陸作用の行

はれざる爲なり、谿谷が一般に段級の缺如せる事實も亦た此の消極的事實の一旁證たるべきなり。

漢江大同江清川江の下流地方鐵道沿線の地貌を観るに、大體に於て以上述べたる忠清道地方と趣を一にし、大同江南の黃州中和等の平地の如き、古生層の古期石灰岩其の主要なる地盤を成す處も亦た表土厚く石灰岩の風化によりて成れる剩餘粘土 Residual clay は赭色の表土として存し地貌は忠清南道の片麻岩地方よりも更に鈍き緩慢なる波狀の臺地を成せり。是より以北は凹凸稍鋭く山嶽谿谷の形勢是より以北と異なるを認むるは、或は造陸作用が南半に比して多少働きたるによるか、此の點は吾人忽々の觀察にては遽かに判定し能はざる所なりとす。

抑朝鮮半島は現在の氣候恰も日本群島と北支那との中間に在りて其の漸移地區たるは氣温雨量等の分布上より明かなるが、上に述べたる表土被覆の狀態亦た此の事情に適應するものにして、山東

遼東兩半島に於て普通なる黃土を缺くこと大陸と全く趣を異にせる點なると、同時に、其の厚き表土の存在は削平浸蝕の盛んなる日本群島とも異なる點として注意さるゝなり。吾人は半島の漸移地域として意義が氣候に於て最も顯著にして延いて表土の狀態に及び地貌に此の如き特色を起せるものと認めざる可らず。造陸作用の缺如は偶ま此の氣候關係の營力の活動を一層顯著ならしめたるものとするを妥當の見解とすべきなり。此くの如く詮し來れば慶尙道の如く日本海及び對馬海峽に面し日本群島と殆ど同一の氣候を有する地方が此の西側と著しく異なることも寧ろ當然なりとす。

是鴨綠江を渡りても其の沿岸に近き地域は尙ほ朝鮮西側の平地と畧ぼ趣を同くせるを認め遼東半島と西側と東側との間に又た注目すべき地貌上の差異を知れり。之を併せ考ふれば半島の地貌の特色の倍明瞭となるを覺ゆ。（九月四日於本溪湖）